

あ  
ぜ  
み  
ち

森林の価値を考えると建築材料としての木材がすぐに思い当たります。しかし、現在は、建築材料も経済がグローバル化している中で安い外国製品との競争で勝ち残らなければ換金できません。日本向けの外国製品が東京の専用港に山積みされ、次々と運ばれて行きます。これと勝負をしなければなりません。

いままでの政策は森林の価値を木材生産中心に力を注ぎ、資源循環型の産業とってきました。が、現在、その曲がり角にきています。採算の取れない木材価格のため荒れてくる人工林が増えていきます。

そんな時代に沖縄の山をどうしたらいいのか考えました。木材がパルプチップとして売っていた時代、ダム建設で安い原料がたくさん入ってきた時代から現在は県産の木材製品が売れなくなった時代です。

資源循環型の循環を沖縄の中で考えた方がよいのか、また、日本全体で考えた方がよいのか、アジア地域全体で考えた方がよいのかどれがよいのか。一般消費者はより低価格で品質の良いものを好むと思いますから、大きな規模で循環を考えてもいいのではないかと思えます。そうなるかわざわざ沖縄で人工林を造成する必要があるのか、と言う疑問が起こります。

沖縄の森の特徴はなんでしょう。とくにやんばるではこの森にしかないめずらしい動植物がたくさんいることです。これがやんばるの森の特徴です。この特徴を換金する方法はないか、森林・林業の方から取り組んでみてもおもしろいのではないでしょう。既存の林道を使い、ガイドをし収入を得る。なにか夢物語のようにみえるかもしれませんがが現実になりつつあります。修学旅行の自然体験のガイド、県内の中学生の野外活動のガイドが増えてきました。森林組合で自然学校を運営してみてもいいかでしょうか。大胆な発想転換が今必要ではないかと思えます。

(沖縄県名護市 上野和昌 林業)

E-mail : shizen-k@yanbaru.ne.jp